

議 事 録

会議名	第2回学校運営協議会		
1	日 時	令和6年1月26日(金) 10:00~11:50	
2	場 所	会議室	
3	出席者	<input type="checkbox"/> 会 長 工 藤 寿 夫 盛岡市立北松園児童・老人福祉センター 所長 <input type="checkbox"/> 副会長 赤 坂 美代子 みちのく・みどり学園 副園長 <input type="checkbox"/> 委 員 小笠原 令 人 さわら園 園長 <input type="checkbox"/> 委 員 古 川 厚 未来の風せいわ病院 <input type="checkbox"/> 委 員 高 橋 廣 至 岩手県立博物館 館長 <input type="checkbox"/> 委 員 小野寺 満 盛岡市立松園中学校 校長 <input checked="" type="checkbox"/> 委 員 村 上 明 光 P T A会長 <div style="text-align: right;">■ 欠席者</div>	
4	説明・記録	<input type="checkbox"/> 校 長 青 柳 禎 久 <input type="checkbox"/> 中学部主事 芳 賀 あ き <input type="checkbox"/> 副校長 佐 藤 守 <input type="checkbox"/> 高等部主事 小野寺 千亜紀 <input type="checkbox"/> 副校長 花 坂 政 博 <input type="checkbox"/> 総務部長 鈴 木 久美子 <input type="checkbox"/> 事務長 佐々木 こずえ <input type="checkbox"/> 生徒指導主事 菊 池 瑞 民 <input type="checkbox"/> 総括教務主任 小笠原 恩 <input checked="" type="checkbox"/> 進路指導主事 木 村 重 晴 (代理) 佐藤 靖子 <input type="checkbox"/> 小学部主事 盛 合 喜代子 <input type="checkbox"/> 記録 館 澤 英 理 <div style="text-align: right;">■ 欠席者</div>	
4	内 容	1 開会 2 校長挨拶 3 学校経営計画及び学校評価について 4 学校評価アンケート結果について 5 本校の教育活動について 6 委員からのご意見、ご提言 7 承認 8 閉会	
5	決定事項	1 学校評価について承認 2 本校教育活動報告について承認	
6	次回日時	令和6年5月予定	

2 校長挨拶

- ・本校では、1月12日から授業が再開している。本校でも児童生徒、職員でインフルエンザの感染が確認されたが、現在は落ち着いている。先日高等部入学者選考が行われ、全員受検することができた。今年は暖冬であるがまだまだ寒さ、乾燥が続くが、児童生徒の健康や安全に気を付けて年度末のまとめの学習に取り組むたい。
- ・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、あらためて学習や行事の見直しをしながら進めている。10月の学校祭では、保護者、学園、運営協議会委員の皆様に応援や励ましをいただいた。
- ・前回の運営協議会では、経営計画、重点事項について説明をした。今年度の取り組みについて、各担当から説明する。ご助言をいただき、今後活かしていきたい。

3 学校経営計画及び学教評価について

(資料 P3 令和5年度岩手県立盛岡青松支援学校経営計画 P4 令和5年度岩手県立盛岡青松支援学校学校評価報告 参照)

学校経営計画について

- ・達成指標をそれぞれの項目に設けている。年末にかけて学校評価を行っている。

学校評価について

- ・今年度の重点目標に対する達成指標を定め、その達成状況は5項目すべて達成された。昨年度は4項目の達成。特別支援教育の専門性に関わる評価が低めだったが、新型コロナウイルス5類感染症移行に伴い職員が研修に参加することができるようになり、さらにオンライン研修が浸透してきたことによりだいぶ改善された。アンケートの対象者によって昨年度より評価が下がっている項目があり、一概によしとは言えない。今後、高い目標を設定し、検討していきたい。

4 学校評価アンケートについて 花坂政博副校長より説明

(資料 P5～P13令和5年度 学校評価アンケート結果 参照)

実施回収について 今年度はFormsを使用し、各自の端末から回答していただく形にした。端末での回答が難しい場合には、用紙での対応もできるようにした。

(1) 教職員のうち教員について：肯定的評価の割合が高かった。極端に低い項目はなかった。互見授業について、お互いの授業を見合う機会があったが、改善まで深まっていないのではないかと意見があった。学習環境についての意見も見られた。

(1) 教職員のうち事務職員について：ワンハートボックスを設置しているが、利用されていない。実例などがあつたらアドバイスをいただきたい。

児童生徒について：昨年度と傾向は変わらない。大切な部分は評価されており、安心している。

保護者について：回答率が45%。本校は、保護者とコミュニケーションがとりにくい状況があり、アンケート回収の在り方について検討していきたい。評価C/Dが7項目ある。病弱教育の専門性について厳しい評価をいただいた。学校として本腰を入れて取り組む必要がある。

関係機関について：昨年度より回収率が低下した。地域の方々から見た本校についてアドバイスをいただきたい。

自由記述：関係者である学園の担当者が保護者の代理として答えていただいている様子が見られる。保護者と関係機関の意見を分けて回収する必要があると感じている。今年度の質問項目は昨年度のものを踏襲しているが、その時の実態に即した内容に変えていきたい。回収率が低いので、対応を考えていきたい。

(高橋委員) 保護者アンケートについて 保護者面談の際に意見をいただいているのではないかと。保護者とのコミュニケーションがとれていないのではないかと。分析はいかがか。

(花坂副校長) 保護者と連絡がとりにくい家庭があり、どのようにコミュニケーションをとるかが課題。

(高橋委員) 保護者と学校の意見が合わないことがあるだろう。どうしても親は親心が出てしまう。

(工藤会長) 保護者の要望も多い。説明責任も含めて、先生には力いっぱい寄り添ってほしい。

(赤坂副会長) 保護者アンケート自由記述欄3・4について 1回目の協議会の時に話題となったが、登校時間が5分というのは短いのではないかと。今後どのようにするかということを知りたい。また、転入手続きについての記述があるが、具体的な内容が分からない。教育、学習の保障という面で重要なことではないかと。

(小笠原総括教務主任) 登校時間について 学園とは連絡簿で子どもたちの情報をいただき、それを確認をした上で子どもたちを受け入れている。3年以上前から5分で受け入れているが、5分というのは小中学部だけである。事情を持っている子どもたちが多くいる。事前に登校時間を約束して個別に対応している。

(芳賀中学部主事) 5分で登校するというのではなく、病状や体調に合わせて登校時間を制限していることがある。学校と学園との区別ができるような習慣を身に付けるようにしている。個別のケースで対応している。

(小笠原総括教務主任) 転入について 学校がなかなか決まらないというのはその通りである。本校は、近隣の施設のみと規定されているわけではない。小中学校と設置基準が違う。教育相談をするが、相談＝本校ということではない。回答にあるご意見がいつの時点から3ヶ月としているのか分からないが、児童生徒の情報をもらっただけでは、すぐに学校見学や相談の受け入れ可能とはならない。各市町村教育委員会で検討され、県からの通知があって、本校転入となる。原籍校から連絡がきてから学校見学、教育相談をするというのが正式な手続きである。小中学校を通しての連絡をもらってからスタートであり、その間の動きについて本校では知ることができない。小中学校との違い等を保護者・本人にしっかりと学校を見てもらってから転入するかどうかを決めてもらっている。必ず本人の意思を確認する。中には「思っていたのと違う」「本当は学校を見に来たくなかった」という子どももいる。納得してもらえよう何度でも学校見学を行っているが、1度の相談で職員3～4人必要となるので、授業を調整して対応している。

(工藤会長) 登校時間の制限はあっていいと思うが、この記述は朝の登校時間のことではないか。

(赤坂副会長) 誰が書いたか分からないのか。

(花坂副校長) 無記名のため分からない。

(小笠原総括教務主任) それぞれの児童生徒の実態に合わせて登校時間を設定して受け入れている。支援会議でも情報共有している。

(工藤会長) 朝の登校時間について 玄関が締まっている。遠くから登校する子もいるが、その辺りは解決しているか。職員の勤務シフトを変えるなどの対策を検討してほしい。

(赤坂副会長) 病状に合わせて対応していることや朝の限られた時間の中での登校時間でないことを理解できた。

(赤坂副会長) ワンハートボックスについて みどり学園でも苦情箱を設置している。数年前までは入っていたが、施設を新しくしてから回答がなくなった。ボックスの設置場所を変えるなど意見を入れやすい環境にする工夫が必要ではないか。校長室前に入れていこう。職責によって威圧を感じる人がいるかもしれない。

5 本校の教育活動について

・小学部 学部主事盛合喜代子教諭から説明

スクールスタンダードを作成し、それに沿って指導している。その子に合わせて目標を決めている。運動会の代わりにスポーツ大会を実施した。内容を工夫しながら取り組んでいる。今年は、保護者や学園の方に来ていただき、子供たちは練習以上の力を出ることができた。今年度は病状や安全面に配慮しスケート教室ではなく小岩井農場へ行く予定である。また、大きい集団での活動として夏祭りをした。みんなで盛り上げられる活動ができた。地域に向かいでの活動ができず、次年度以降検討していきたい。

・中学部 学部主事芳賀あき教諭から説明

会津支援竹田校との交流を10回程度実施した。互いの地域の博物館の様子や調べたことを発表し交流している。生徒の実態に合わせて1泊2日函館方面へ修学旅行を行った。高齢者施設へ行き、一緒に花寄せをした。総合運動部としては、おもにバドミントンの活動に取り組んでいる。コロナ5類移行に伴い、調理実習の回数を増やした。リモートで進路講話を実施した。

・高等部 学部主事小野寺千亜紀教諭から説明

3年間の教育活動をとおして生徒一人ひとりの教育指導計画を作成し、共通理解のもと生徒と関わっている。自分の気持ちを管理し、社会のルールを学ぶ、人と関わることの大切さに気づく学びの場を心がけている。気持ちを相手に伝えることで自分が生きやすくなること、感謝の気持ちを伝えることを学校生活の中で生徒本人が理解できるように気を付けている。関係機関との連携を密にし、社会で主体的に活動できるよう生徒と関わってほしい。

・総務部 総務主任鈴木久美子教諭から説明

年2回のアンケートをもとに、内容を検討しながら活動を進めている。PTA会報では児童生徒の様子を伝え、PTA通信ではアンケートの結果等を掲載し、活動の内容を知っていただくようにしている。PTA活動について、保護者の参加人数が少ない現状があり、参加しやすい内容を検討していきたい。今年度の卒業式では、卒業生が(PTA交流会で制作した)コサージュをつける。同窓会について、往復はがきではなくFormsを活用して参加申込を行った。参加できなかった方からは、もう少し早く日程を知らせてほしいという声があった。

・教務部 総括教務主任小笠原恩指導教諭から説明

小学部中学部は年度途中の転入生があり、2月1日現在で小学部1名が増え、年度当初より5名増である。転入する学年や教育課程がそれぞれ違うため、2学級増となった。その都度時間割変更や授業準備をすることになっている。例年より学校見学の要請時期が遅くなった。今年度は9月以降学校見学や相談が増加している。12月7件。1月2件。2月も2件依頼あり。理解していた上で、自分ががんばれそうな学校を選んでほしいと話している。丁寧に情報を精査して進めている。

・生活指導部（生徒指導担当） 生徒指導主事菊池瑞民教諭から説明

生徒指導について 児童生徒の減少が続いており、学年のリーダーとして活動できない状況になってきたため、学部全体で活動しリーダーを育成している。いじめの防止対策について 12月現在で2件。小学部児童がお互いに嫌な思いをしたということで2件という結果。早い時期に認知、指導している。不安・不穏になった生徒が問題行動を起こすことがあったが、学校生活に慣れてきている様子。盛岡市のシェイクアウト訓練に登録し、訓練を行った。1月の大きな地震もあり、生徒の意識が定着してきている。

・進路指導部 進路指導主事代理佐藤靖子教諭から説明

中学部では学習面、高等部では社会人としての生活を指導している。コロナがら類移りし、外部へ見学や実習へ行けるようになってきている。進路未決定の生徒を含め、アフター指導が増えてきている。不登校生徒が課題。高等部での3年間で社会人としての意識を付けられるか。コロナ禍を過ごしてきた児童生徒が高等部に入学した時に、どのような進路指導をするか。今後、高等部入試の方法が変わるため、情報を集め提供していきたい。現在、高等部3名が現場実習中である。

6 委員からのご意見、ご提言

・工藤 寿夫 会長

生徒の特徴を生かして役割を与えながら指導しているということに感心した。先生方のご苦労を感じる。アンケートではいじめ体罰がなく、安心安全で過ごせている。コロナが明け今後も研修を続け、保護者の気持ちに寄り添いながらすすめていってほしい。

・赤坂 美代子 副会長

1回目の協議会の時に、学校の課題として児童生徒減少の話題があった。今回、学校評価の関係機関回答が7件。地域の皆さんへ岩手県として学校環境を活用していくために地域の小中学校や幼稚園、その他地域の方へどのように盛岡青松支援学校を活用するかというアンケートをとってみてはどうか。有効に活用するために考えてほしい。

・小笠原 令人 委員

学校としてきめ細かい対応されていると感じた。アンケートでいろいろなご意見があることが分かった。施設でも似たような状況があり、発信してもなかなか意見があがってこない。年2回ご家族とのモニタリングがあるが、家族には世話してもらっている意識があるためか意見を言いにくいということもある。こちらから積極的に声をかけるだけで、次につながることもある。デジタル機器を使つてのやりとりは合っていると感じた。参考にさせてほしい。学校で取り組んでいることを発信し、外部からどう意見をいただくか、対話できる場があれば道は開けるのではないかと。

・古川 厚 委員

アンケートボックスの置く場所には留意している。病院ではQRコードにしている。厳しい意見もあるが、本音が聞けることもある。患者さんからの意見箱にはたくさん入る。それらは必ず掲示板で紹介し、コミュニケーションをとれるようにしている。

・高橋 廣至 委員

博物館と授業の連携、博学連携を行っている。なかなか学校の授業を見る機会がなく、関心をもって見せていただいた。生徒たちの関心が高く、長く続けていきたい。学芸員には、教員、教員ではない者もいるが、生徒から「学芸員になりたい」という話を聞くことがあり、一番の誉め言葉であった。今年度学校祭を見学したが、実践までには相当な時間がかかったんだろうと感じた。当日は皿とぐい飲みを購入した。

・小野寺 満 委員

子どもたちの表情が柔らかくなっているように感じた。本校にも特別支援学級があるが、4月の学習と今のまとめの学習は違う。半年間の学習の成果を感じた。学校評価はいろんな意見がある。子どもたちが楽しい、授業が分かる、相談できる教員がいるという項目に1つでも意見があつたらそこはこだわってほしいという思いがある。児童生徒アンケートでD評価が1名いるが、それは盛岡青松支援学校を頼っている生徒だと思う。意見が0になるようにという思いで取り組んでほしい。コロナが明け、学校では行事を以前のように戻していると思う。働き方改革と教員の負担とのバランスが難しいところではあるが、R6年度はそれも落ち着き安定期となるのでいい教育を目指してほしい。

7 学校評価及び教育活動の報告について承認されたもの